

◆実践問題18◆

1回目
2回目
3回目
4回目
5回目

昔、右近将監下野厚行といふ者ありけり。年た

かくなりて、西京に住みけり。隣なりける人、には

かに死にけるに、この厚行、とぶらひに行きて、そ

の子にあひて、別れの間の事どもとぶらひけるに、

「この死にたる親を出さむに門悪しき方に向かへ

り。さればとて、さてあるべきにあらず。門よりこ

そ出すべきことにてあれ」と言ふを聞きて、厚行

が言ふやう、「悪しき方より出さむこと殊にしかる

べからず。かつは、あまたの御子たちのため、殊に

忌まはしかるべし。厚行が隔ての垣をやぶりて、

それより出したてまつらん。かつは、生き給ひた

りし時、事にふれて情のみありし人なり。かかる

折たにも、その恩を報じ申さずは、何をもてか報

ひ申さむ」と言へば、子どもの言ふやう、「無為な

る人の家より出さむこと、あるべきにあらず。忌

みの方なりとも、わが門よりこそ出さめ」と言へ

ども、「ひかごとなし給ひぞ。ただ、厚行が門より

出したてまつらむ」と言ひて、帰りぬ。